

各地の話題 ー長野県の植物防疫業務の取り組みー

長野県病害虫防除所 福本 匡志

長野県は本州の中央に位置し、南北に長く標高差を伴う広大な県土で、地域の気候風土に合った幅広い農作物が栽培されています。多様な栽培環境がある本県では、農作物に発生する病害虫も地域により特徴が見られます。さらに近年、気候変動にともなう病害虫の発生相の変化や、新たな病害虫の侵入・発生などにも注意を払う必要があります。

さて、本県の植物防疫業務は県北部の須坂市にある農業試験場内に病害虫防除所（以下、防除所）を設置して、県庁農業技術課、農業関係試験場や農業改良普及センターなどと連携を図りながら進められています。防除所は防除企画課と発生予察課の2課体制のほか、県中部、塩尻市の野菜花き試験場内に中南信担当をおき、試験場長を兼務する所長を含め、総勢10名で業務を担っています。

なお、普及センター等に県区発令の職員、JA等に病害虫防除員をおいています。

業務内容ですが、防除企画課では、農薬の安全使用と適正な取扱いの徹底を図るため、農薬情報のHP公開、長野県農作物病害虫・雑草防除基準の編集及び農薬安全サポートシステム

（Webによる農薬・病害虫・防除基準検索システム）の運営を行っています。

また、農林水産航空事業に関することや病害虫防除研修会の企画などの業務を行い、安全・安心な植物防疫の啓発を進めています。

発生予察課では、主要農作物の病害虫についての巡回調査と病害虫防除員や予察員からの情報提供により発生予察情報の作成と発行を行っています。また、県内の病害虫診断にも対応し、特に早期の対処が有効な野菜・花き類に発生するウイルス病（10種類）に対して、D I

BA法及びイムノクロマト法による診断を実施しています。最近、植物防疫業務の中でも環境保全型農業の推進に関する取り組みが全国的に進められています。本県でも平成19年に策定された「長野県食と農業・農村振興計画」により、平成20年から5年計画で施策を展開中ですが、その重点戦略の一つとして「環境にやさしい農業・農村づくり戦略」が盛り込まれています。そこには総合的病害虫・雑草管理（IPM）の普及定着を推進し、病害虫の発生状況等に依じた適切な防除を進める目標が掲げられています。防除所では従来からアメダスデータによる葉いもちの広域的な感染予測を行ってきましたが、山間部など常発地での局所的な発生予察にも対応する必要があり、そのための発生予察支援装置と解析ソフトが農業試験場（旧農事試験場）で開発されました。本装置はほ場に設置して、現地の気温、降雨量、濡れ時間を観測し、葉いもちの感染予測を行うものですが、イネの生育予測機能等を付加した「クroppナビ」として改良、昨年



長野県病害虫防除所（長野県農業試験場内）と普及が進められている「クroppナビ」

から市販され、県下各地で普及が進められています。防除所では装置の活用法のサポートと各地の情報集約を行っており、地域の農業

改良普及センター、JA、NOSA I、市町村などと連携し予察体制を支援しています。「クroppナビ」で得られた感染予測結果は地域の関係機関で予察情報としてまとめられ、広報での周知やケーブルテレビで放映され防除啓発が行われるなど、地域での栽培方法や環境に合わせた活用が模索されています。今後、防除要否の判断基準の策定や、効率的な防除方法の確立につながられるよう、農業者が予察情報を基に自らほ場を観察し、防除判断ができるようになることを願ってやみません。